



黒田 杏子氏 選評

天 かりがねや三陸の碑に掌を合はす

はるか淡路島から九三歳の女性が三陸の碑に手を合わせ、折っておられるのです。俳句は素晴らしいですね。たった一行十七音字、時空を超えて人と人の心、たましいをつないでしまうのですから。喜田さんは玉ねぎづくりの名人。去年から畑の仕事は辞められましたが、農業に打ち込み、句作にも打ち込まれる見事な女性。

地 被災者に休日診療燕来る

ある日曜日、福島県浪江町の方々数人が歯科の診療を求めてこられた。被災者の方々を知って、診療をしましたとのこと。数人で訪ねてこられたあの方々はその後どうしておられるか。とありました。

人 白河の関の追憶月の夜

月の美しい夜。かつて訪ねた事のある「白河の関」が心に浮かんできたのでしょうか。芭蕉と曾良の旅などいろいろな憶われ、懐かしさがあふれてきたのでしょうか。月の秋と留めたところがよろしかったですね。年を重ねるといふ事は憶い出を楽しむ事もふえるという事ですばらしい事でもありますね。

鈴の音も読経も花も野分だつ

野分だつ夜。作者はいろいろの事に想いをはせているのでしょうか。みちのくの被災地の事に心が及んだ時、遍路の鈴の音が聞こえ、亡くなられた方々を悼む鈴の音が静かに胸に響いてきた。という風にうけとめ、この句に共感しました。

届かない手がありました畔青む

詩的な俳句ですね。いろいろな鑑賞ができる句だと思います。津波にさらわれる人に救助の手が届かなかった。その人を深く想っていても想いが伝わらなかった。畔青むという座五の季語のあつせんはよろしかったと思います。希望が感じられる止め方だからです。この俳句賞の拙がりを感じさせて頂いた句でした。

入選 秋の海それぞれ違ふ波を見て

菊焚くや浄土ヶ浜の雲厚し

パリケード越しに経あぐ老遍路

われらにも死後あり緑立つ海辺

初夢は皆高台にゐる笑顔

津波来し桜ラインにひとり吾

お遍路が年に一度の飯を乞う

少年になれなかった児蟬時雨

轉や人を生かせし人の墓

松の光松の高田へ虹の橋

特別賞

野の風も草も活けたる遍路宿

一本の墓標となりし遍路杖

死ぬために生きてみちのく遍路かな

ただ歩き遍路日記を書き通す

被災地は今も被災地遍路道

口笛を吹きつつ遍路行きにけり

曾根 新五郎 (新島村式根島六七歳)

曾根新五郎さんは、今回も数えきれない名句を寄せられましたが、どれも立派な句でした。この句会をはるばる東京都式根島から支援してくださるご厚情に感謝します。あまりの投句の多さに(編集注:百句ありました)、あえて一句を選ぶことは致しませんでした。ぜひ、特別賞を曾根さんに差し上げたいと思います。また、私は今年から選者料をこの俳句会のために寄附、つまり選者料辞退を決めました。皆様の御健吟をお祈り申し上げます。

二〇二三年一月七日(七草がゆの日) 黒田杏子

選外作品五十句

御詠歌のながるる仮設迎盆

海へ向く復興地蔵雪しんしん

三月や鎮魂の鐘打ちにゆく

蛙のぼる震災の町はなやげり

搜索の未だに続く盆の波

十二年振りと祭の大漁旗

父のぬいぬい上げの家草

ワンカップ一つ秋澄む師の墓に

浜風やユリの花束献花台

大川小語り部永遠に鎮座する

あの日よりこころいずこや遅桜

ひつじ雲 仰ぎ見る空 慰霊塔

蛇穴を出る外海へ汚れ水

中浜の寒き屋根裏こえ強し
泣き叫ぶ海鳥仲間波静か
畑育子(盛岡市六九歳)
阿部ゆき子(盛岡市七十歳)
木村輝子(盛岡市八八歳)
中村美栄子(盛岡市八五歳)
菊池節子(盛岡市八七歳)
伊藤恵美(盛岡市六十歳)
十月小萩(盛岡市四四歳)
及川智子(盛岡市五二歳)
岸浩子(陸前高田市六六歳)
阿部澄江(大崎市六八歳)
遠藤麻紀(石巻市四九歳)
須田光昭(仙台市六四歳)
中島吉一(仙台市七一歳)
柳沼祥子(仙台市三八歳)
針生きよみ(仙台市六二歳)
早坂ひろ子(仙台市八四歳)



夏井 いつき氏 選評

天

三鉄は灼けて車窓はすべて海

久保哲也（松山市 六七歳）

震災復興のシンボルの一つ、岩手県の海岸に沿う三陸鉄道。「三鉄は」に続く季語「灼けて」の三文字によって、夏の陽射しに灼けつく線路や、車両の帯びる熱や、巻き起こる熱風や、激しく照りつける海岸線がまざまざと映像化されます。車窓から見える圧倒的な海の広がり、灼熱と対峙しつつ、眼前に迫ってくるようです。

地

丘の墓碑こえて白鳥来たりけり

宮下 征男（前橋市 八三歳）

「墓地」ではなく「墓碑」。震災で犠牲となった方々の墓碑が並ぶ丘でしょうか。そこには、追悼と鎮魂、及び震災の記憶を伝承するための慰霊碑も建っているのかもしれませんが。その円やかな丘を飛び越え、今年も白鳥が渡って来ました。大海を渡って来た白鳥たちの優美かつ力強い白は、明日への希望の光のようでもあります。

人

語り部の言ひよどむ間や秋の潮

大信田 宏子（盛岡市 七四歳）

東日本大震災の語り部でしょう。あの日の津波や避難生活、復興状況など、震災遺構を案内しながら、自らの震災経験を語っています。語りの中で思い出した記憶に、思わず「言ひよどんだ瞬間、その沈黙が聞き手の胸に言葉以上の思いを手渡します。あの津波をおこしたとは思えない秋の潮の音だけが、もの哀しく響いています。」

かげろふやここは千年核置場

平子 玲子（いわき市 七五歳）

「ここは千年核置場」を、福島原発という存在の比喩と読みました。この地は、千年先まで「核置場」であつたと語り継がれるに違いない、との悲嘆。春の季語「かげろふ」は、廃炉への遅々たる現状と「千年」という時空を繋ぐかのように、揺らぎ続けます。陽炎の先にあるのは一体どんな未来なのか、不安と希望が交錯します。

草の実をつけて巡礼はじまりぬ

梅田 昌孝（北名古屋 六九歳）

福島県いわき市から青森県八戸市までのリアス式海岸を行く1700kmの東北お遍路の巡礼。慰霊と鎮魂の「こころのみち」には、様々な秋の草が自生しています。出発の日、くつついていた「草の実」に気づいた作者。巡礼地を巡るこの旅を「千年先まで語り継ぎたい物語」の種を蒔いているように感じたのかもしれませんが。

入選

浜豌豆渚に砂の戻り来る

豊島 喜美子（宮古市 六六歳）

慰霊碑や父の名札を探す春

古川 制子（盛岡市 五五歳）

盆波の岬ふたりの測量士

二階 堂光江（盛岡市 六八歳）

被災地にこの世の雪が降りにけり

佐藤 広和（仙台市 六〇歳）

夜の森の花と語れば死者のこゑ

逢美（いわき市 八七歳）

夜蟬百五十四人の鎮魂碑

森川 雅美（東京都 五八歳）

川よりも低く歩みし遍路かな

曾根新五郎（東京都 六七歳）

かなかなや佇むことも許されず

半田 良浩（宇都宮市 四八歳）

抽斗の油の燃ゆる春の雪

敏（仙台市 七六歳）

草茂る十一年の通行止め

佐藤 尚子（伊達市 六十歳）

避難さき五度かえ友の泣き笑い

宮野 小町（仙台市 七四歳）

夏雲と波音だけの防波堤

高橋 さとみ（仙台市 七二歳）

閑上の未来も手繰る地引網

南部 努（仙台市 七一歳）

空澄んで風の電話のいつまでも

笹川 圭子（仙台市 六四歳）

秋風や仮設住宅解体中

齋藤 伸光（仙台市 七五歳）

津波の碑手てなぞりたる秋彼岸

高橋 スミ子（名取市 七五歳）

復興の春特番に友みつ

平塚 漁市（名取市 七一歳）

余寒の避難所ラジオを回す夜

安部 陽裕（鶴岡市 三三歳）

朝涼し観音めぐる震災忌

武田 本子（東根市 八六歳）

夜の森の青空突くや桜花

中山 輝雄（福島市 七八歳）

久方のなまり飛び交ふ春炬燵

佐久間 静苑（いわき市 八一歳）

暗幕の毛布の一夜子らの無事

伊藤 弘子（いわき市 七五歳）

鎖錆ぶ帰還困難秋の庭

齋藤 美保女（郡山市 六六歳）

原発や泡立草に罪はなし

柳沼 弘（郡山市 八一歳）

あの日より探し続けて鳥雲に

小野 トメヨ（新地町 九八歳）

忘るるも忘れぬも大事弥生尽

村上 美保子（新地町 七三歳）

神無月大きな願い小さくし

荒拓見（新地町 七四歳）

虫も飛ばぬ暑さ更地に伸びる草
今もなお涙止まらぬ東北忌
原発や海月漂ぶ汚染水
冬ざれの北上沿いの正教会
幾千の声の海鳴り鯛雲
鮭風お遍路どうし膝まじえ
故郷にひびく榎音竹の秋
君が名を呼んでいるよな小鳥来る
語部の女子高生の声さやか
夢喰らう獲引き連れて盆の旅
百千鳥もどきむ蒲生干潟へと
お遍路笠つひに破るる鬼やんま
宗任の涙石とぞ落葉横む
洞窟のあはき光や蟬時雨
鷹渡る公衆電話朽ち果てて
勇魚獲る声 浜海へ流されぬ
相馬より届きし梨の陽の香り

新谷 香織（相馬市 六二歳）
富田 奈津絵（三春町 四七歳）
森山 恵子（柏崎市 七四歳）
吉村 リツ子（柏崎市 七十歳）
満保 千里（高岡市 五九歳）
石井 恵子（前橋市 六三歳）
宮下 征男（前橋市 八三歳）
星川 双葉 花形 星子（前橋市）
田代 フサエ（伊勢崎市 八八歳）
関谷 和江（江戸川区 七八歳）
明惟 久里（練馬区 五九歳）
順矢（日野市 七三歳）
伊藤 一泊（横須賀市 八八歳）
花瀬 玲（横須賀市 六六歳）
朗善 千津（松山市 六二歳）
山内 ひでやん（松山市 五四歳）
佐藤 節美（北九州市 六十歳）

＜第7回東北お遍路俳句コンテスト作品募集！＞ ■ 題：自由題、ただし東北お遍路に因むもの ■ 応募期間：2023年10月30日（必着） ▶ 作品の送り先：976-0022福島県相馬市尾浜字南ノ入241-3 東北お遍路コンテスト係

【東北お遍路俳句・写真コンテスト賞品当選者】 ●被災地うまいもの1万円分(2名) 俳句の部：喜田明子様／写真の部：西山 栄様 ●被災地うまいもの5千円分(4名) 俳句の部：久保哲也様、宮下征男様／写真の部：佐々木 均様、門林泰志郎様 ●クオカード千円分(20名) 俳句の部：半田里子様、多賀与四郎様、竹内貴久枝様、森川雅美様、大信田宏子様、平子玲子様、梅田昌孝様、菊地十音様、西内正浩様、佐藤尚子様／写真の部：庄子喜一様、村上美保子様、岸 浩子様、高橋達也様、村上 淳様、庄子源六様、瀬川征吉様、丹治郁夫様、佐藤尚子様、市川清一様